

**令和2年度 山形県公立大学法人
第3回経営審議会
第3回教育研究審議会（米沢栄養大学）
第3回教育研究審議会（米沢女子短期大学）
議事録**

1 日時 令和2年10月9日（金） 9：58～11：56

2 場所 B号館 2階会議室

3 出席者

<経営審議会>

（出席） 学内委員：阿部理事長、佐藤理事、大和田理事、金光理事、菌部理事、松井理事
学外委員：加藤理事、清野理事、宮原委員、黒田委員
※委員10名中10名出席、定款第16条の規定により会議成立

<教育研究審議会（米沢栄養大学）>

（出席） 学内委員：阿部学長、大和田理事、金光理事、成田委員、高橋委員、大益委員
学外委員：清野理事、渋江委員
（欠席） 学外委員：吉池委員
※委9名中8名出席、定款第20条の規定により会議成立

<教育研究審議会（米沢女子短期大学）>

（出席） 学内委員：阿部学長、菌部理事、松井理事、高橋委員
学外委員：清野理事、中島委員、結城委員
（欠席） 学内委員：鈴木委員
※委員8名中7名出席、定款第20条の規定により会議成立

<監事>

（出席） 山上監事
（欠席） 五十嵐監事

<事務局職員>

（出席） 菊川次長、浜田課長、高橋課長、鈴木専門員、小林主査、境主査、金谷主事

4 議事録署名人の指名

阿部理事長から、黒田委員（経営審議会）、大益委員（教育研究審議会[栄養大]）、中島委員（教育研究委員会[米短大]）の3名が議事録署名人に指名された。

5 報告

- (1) 新型コロナウイルス感染症に関する対応について
事務局から報告資料1により報告がなされた。
- (2) 山形県公立大学法人評価委員会による令和元年度業務実績評価について
事務局から報告資料2により報告がなされた。
- (3) 令和3年度入試について
事務局から報告資料3により報告がなされた。
- (4) 令和2年度卒業予定者の進路状況について

事務局から報告資料4により報告がなされた。

6 協 議

(1) 令和2年度補正予算(案)について

事務局から協議資料1により説明がなされ、案のとおり承認された。

(2) 山形県公立大学法人第3期中期目標(案)及び第3期中期計画骨子(案)について

事務局から協議資料2により説明がなされ、中期目標についてはこの内容で進めていくこととし、中期計画については引き続き学内で検討を進めていくこととされた。

宮原委員から、中期目標の前文の教育研究成果を活かした地域貢献について、どのように成果を還元するか、連携・協働の形をどう捉えるか、県民の豊かな暮らしの実現に何をもって貢献するかなど、大きなバックグラウンドが必要と思うがどうかとの発言があった。これに対し、大和田理事から、栄養大としては、地域連携・研究推進センターにおけるシンクタンク機能や、リカレント教育の強化を図ることを考えているが、これまでも協定に基づく企業との連携、スマートミールの普及といった市内飲食店と連携した食環境の整備に取り組んでおり、県民栄養調査における食塩摂取量の減少という効果も生まれているとの発言があった。また、菌部理事から、生活文化研究所において地域とタッグを組んだ共同研究を行っており、先日も共同研究成果報告会において4件の研究成果を発表した。地域の方々と知恵を出し合い課題を解決する取組みを拡充したいとの発言があった。

黒田委員から、地域にあるテーマを学術的にきちんとまとめることが、学生や地域、そして国際的な評価につながる。例えば、上杉鷹山公の推奨した「うこぎ」も様々な分野からアプローチし論文としてまとめるようサポートしてはどうか。地域と学生(大学)が結びついて、双方向に発展していけるようなプログラムを立ち上げてはどうかとの発言があった。

加藤理事から、上杉振興財団の監事を務めており、財団で管理する博物館や図書館では相当な資料を持っているが、これまでの大学との連携状況はどうであったかとの発言があった。これに対し、菌部理事から、江戸時代のお寺の文書の解読には、県内の高等教育機関や博物館、ナセBA等の10人ほどのチームで取り組んでおり、それが「米沢史学」での連載に結びついているとの発言があった。

結城委員から、中期計画の項目数のスリム化は大賛成である。PDCAサイクルを回す際のC(チェック)が重く負担になるので、より軽やかにサイクルを回すことができるようスリム化を図ってほしいとの発言があった。

中島委員から、大学院におけるユビキタスに学べる環境整備として遠隔授業の実施が示されているが、遠隔授業はリカレント教育や県の計画でいう社会人の履修環境の整備にも密接に関係するものであり、これらを結びつけて考え、大学コンソーシアムの活用も上手く組み合わせると、より良い計画が出来るのではないかとの発言があった。これに対し、成田委員から、大学院の場合、遠隔授業は問題なく実施できており、県外から学んでいる学生もいるので効果的に教育ができたと考えており、今後検証しながら本格的な実施につなげていきたい。本年度のリカレント講座については、遠隔で実施する予定であるとの発言があった。また、菌部理事から、これまでは公開講座、出前講座、講演という形でリカレント教育に対応してきたが、単位は要らないが授業を聴きたいというニーズがある。この単位取得を目的としない授業の開放については、これまで規定はあったものの具体化されてこなかったので、あと2年くらいで実現させたいとの発言があった。

清野理事から、県内には食品産業や薬品系の企業が様々各地にある。こうした県内企業等と、大学の有する知的資源を有効に活用することが重要である。例えば、奥田シェフを活用するなど

公開講座を興味深いものにしたたり、豊富な県産食材を活用した健康に配慮したレシピや商品開発、慶應義塾大学先端生命科学研究所との連携による栄養学的な成分分析に取り組むなど、様々な地域連携の形があるとの発言があった。

黒田委員から、リモートの進展は、ここにいながらにして海外を含めどこの大学の授業であっても受けることができるようになり、本学にとって脅威である一方、山形にとってチャンスでもある。卒業後に地元就職しない学生の中には、就職後の教育を受けるシステムがないことを理由にあげる者もいるが、そうしたことはリモート化により提供を受けられるようになることもある。キャリアという言葉は職業的なことだけでなく、暮らしや生きること全体を含む概念であり、仕事以外も含めて考えてはどうか。「多文化共生」は国際化や人権尊重にもつながる言葉であり、その言葉があると良いのではないかとの発言があった。

結城委員から、戦略的な運営を実現するには、手段・武器が必要。学長裁量費があるのであれば、今後とも確保していくことが必要との発言があった。

中島委員から、山形大学も財源が減っているなかでも、学長裁量費をしっかりと出している。この度のコロナウイルス感染症への対応も、それがなければ成り立たなかった。しっかり采配を振るえるように掲げるのは重要との発言があった。

渋江委員から、保健医療大学においても同じペースで計画の策定を行っているが、PDCAを回すためにも、6年間のアクションプラン、工程表を検討している。県内出身の学生確保に関しては、数値目標を設定する予定である。地域という言葉がかなり出てくるが、それが置賜地域を表すのか、県内なのかなど、明確にできるところは整理した方が良いのではないかとの発言があった。

宮原委員から、情報収集という言葉について、受け身ではなく、大学の研究成果の上に成り立つ可能性や魅力を提供しながら引き出すことが重要である。フェイスブックやツイッターは企業では多く使われているが、活用状況はどうかとの発言があった。これに対し、理事長から、アカウントは持っていない。見てくれる人は多いと思うが、更新し続けるのが重要であり大変であるとの発言があった。

黒田委員から、本学の学生からコロナ禍においてインスタグラムのメッセージで連絡を受けたことがある。学生が何かあった時にはフェイスブック、ツイッター、インスタグラムを見て情報を取っているのは確かであるが、SNSは発信が難しく、コンスタントに行わないと見てもらえなくなるのでは、との発言があった。

中島委員から、コロナウイルス感染症についてはキャンパスの閉鎖や感染者の発生等をこれまで経験したが、学生から正しい情報の申告を得られるかが一番大事だと感じている。また、学生に対し体調が悪い場合は公欠にするなどの注意喚起がしっかり行われており、このような対応は教育内容の確保の観点から大切であるとの発言があった。

7 その他

(1) 次回以降の審議会の開催日程について

事務局からその他資料1により説明がなされた。

【配付資料】

- 報告資料1 新型コロナウイルス感染症に関する対応について
- 報告資料2 山形県公立大学法人評価委員会による令和元年度業務実績評価について
- 報告資料3 令和3年度入試について
- 報告資料4 令和2年度卒業予定者の進路状況について

- 協議資料1 令和2年度補正予算（案）について
- 協議資料2 山形県公立大学法人第3期中期目標（案）及び第3期中期計画骨子（案）について
- その他資料1 次回以降の審議会の開催日程について

議長 理事長(兼)学長

議事録署名人

議事録署名人

議事録署名人